

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101580		
法人名	医療法人 社団 扇寿会		
事業所名	グループホーム なでこの丘		
所在地	石川県金沢市馬替2丁目7番1号		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和8年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 tsunagu
所在地	石川県野々市市高橋町9-41
訪問調査日	令和7年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・面会の方、地域の方等、来居される方に対して、積極的に明るく挨拶するよう心掛けています。 ・コロナ禍以来、散歩・ドライブ・買い物などまだ以前と同じようには出来ていない為、気分転換が図れるよう、入居者の希望も聞きながら各フロアで行事に取り組んでいる。 ・入居者とご家族の面会は、現在エレベーターホール等で実施しているが、以前のように居室内でも面会出来ないか、職員で前向きに対策を検討している。 ・来居の難しいご家族には、電話で近況報告をする等連絡を密に取るよう心掛けています。 ・毎年「なでこ便り」を発行し、活動の様子や季節の行事写真を家族にも見て頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時や情報交換時に折に触れ目標と理念を職員同士共有している為浸透している。玄関のボードにわかりやすく明示してある他パンフレットにも明示され入居時に説明し同意を得ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道で出会えば、必ず挨拶をし会話したりする。また、地域の盆踊りなどに入居者の方と一緒に参加し、交流していたが、コロナ禍以来、外部の方との交流は見合わせている。外食行事も取りやめ、お弁当のテイクアウトを提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、介護予防教室や地域のボランティアに場所を提供し、職員と入居者様が共に交流していたが、コロナ禍以来控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではケアサービスの実際や評価の取り組み状況等を報告し、家族や地域の方々から意見をサービスの向上に活かす努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外には、市役所に電話連絡で疑問点を聞いたり、アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。言葉の暴力や無視する事も拘束の一つである事も常日頃、情報交換で話し合い職員全員が理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学習を行っており、虐待防止の講義にも常に参加している。又、防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設には成年後見人制度を利用している方がおられ、行政書士の方と連絡を取ったり、面談してコミュニケーションを図り、情報交換を行っている。今後も研修や勉強会に参加し、必要な人に活用できる様努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時必ず契約に関する説明を納得されるまで行なっている。疑問や質問があればその都度答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常年2回家族会を開催しているが、コロナ禍以来中止となっている。その集いの場で意見、要望を話し合ってきたが、現在はサービス担当者会議を中心とし、家族からの意見、要望を聞いて運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週木曜日の情報交換で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での話し合いを多く持っている。管理者は職員が悩み事始め何でも話し合える雰囲気作りをしている。年1回、人事考課の自己評価表を全職員が記入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には新人オリエンテーションをし、新人チェックリストを作成し、教えながらチェックしていく。又、毎月1～2回の施設内研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降実施出来ていないが、通常は金沢市のグループホーム部会の他施設の交流研修に参加し、他施設の良い点を吸収し、質の向上を図っている。金沢市社会福祉競技会主催のケアワーカーカフェにも時々参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個室にてゆったりとした話しやすい環境を作り、本人の思いを受け止めながら話を傾聴し、安心・納得されるまでお話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話聞く事が一度で終わるのではなく、いつでも気軽に話す事が出来る様配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求めているかを見極め、種々のサービスがある事を話しながら必要としているサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味や特技、又、若い時の仕事の話などで頂き、本人から色々な事を学び教えて頂く様に和気あいあいと過ごしながらいを助け合っている。人生の先輩としての尊敬の念を忘れず持ち続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取りながら、面会時には近況報告なども行なう。家族に対し希望を伺い、一緒に考え分かち合いながら支援できる様話し合いの場を持つようになっている。現在面会は玄関ロビーまたは各階エレベーターホールで行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況を把握し誰とかがかわっていたかを知り話題にしたりしている。知人の面会時などはゆっくりお話が出来る様お茶やお菓子などお出ししている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションが図られる様仲立ちしている。一人でいる時は声かけし全員で懐かしい歌やゲーム等が行なえる雰囲気を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連病院でお会いした時や老健でお会いした時は健康状態をお聞きする等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画にそって個人個人の希望や意向を充分検討し思いやりのある統一したケアをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係各所からの情報を理解し、ご本人からの情報も汲み取れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康管理をし、趣味を取り入れその人に合った過ごし方に努め状態を把握しながらケアをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人について、家族や本人から希望や意見を拝聴し職員とも話し合い介護計画を作成し、見直しは常に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にもとづいて統一したケアを実践しており、1ヶ月毎に本人の状態をショートサマリーとして記録しケア実施記録表を導入、個別のケアを明確にし毎日実施、評価している。また職員は常に情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には常に対応し老健と協力しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常は、地域の小学生とふれあったり、ボランティアや消防署（消防訓練など）と協力しながら支援しているが、コロナ禍以降外部との交流は減っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診察を2週間に1回受け、個別にかかりつけ医がある人は往診を受けたり受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日中はほぼ常勤しているので些細な事でも気軽に相談し健康管理などの支援をしている。緊急の場合もすぐに対応できるよう携帯電話を使用し迅速に対応が受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、必ず様子をうかがいに顔を出し、又、早期に退院できるよう医師や病院看護師と情報交換し、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向にある方は職員間でまず話し合い、早めに家族、主治医と話し合い方針を決めている。又、ホームとして出来る事、出来ない事を見極め、主治医と連絡を密にとり指示を得ながらチーム一丸となり対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会をし実践も行っている。又、マニュアルも作成してある		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のマニュアル、連絡網も徹底している。平成28年度よりAED設置し、誰でも使えるように勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力病院に南ヶ丘病院、施設に老健なでこの丘があり、バックアップが十分に整っている。月2回の訪問診察や定期受診をしている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	3ユニットで各フロア1名ずつ夜勤体制をとっており、連絡網も整っている。緊急時のマニュアルもあり、正しく連絡を取り合い、応援体制をすぐに作る事が出来る。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(年2回)消防避難誘導訓練しており日頃より地域の人々の協力も得られるように働きかけている。又、マニュアルも作成してある。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時の備蓄品も準備してあり年1回交換点検している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶ時はさん付けで呼び、常に尊敬の気持ちを忘れず、優しい声掛けを行っている。排泄は個人のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。ドア及びカーテンを閉める等周囲に配慮しさりげなく誘導や介助をしている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解できにくい方には、分かるようにゆっくりと説明し(筆談もあり)自分で洋服を決めてもらったり、行事やレクの参加を決めてもらったり、急がず本人のペースに合わせ支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自のペースに合わせ穏やかな日々を過ごせるよう支援している。行事なども声掛けするが無理強いはず、本人の希望に沿うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で、ホームの出張理容サービスか他の美容(理容)室に行くか決めている。毎日の服選びも自由にしてもらっており、外出や行事も本人の好きな服装で参加されている。相談を受ければアドバイスしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事準備や後片付けの出来る方は少なくなっているが、出来る方は進んで手伝って下さっている。又、一緒にテーブルに着き食事中も季節や思い出話、献立について会話している。食事をさりげなくサポートしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェックや排泄の状況、食事摂取量を把握している。歯の状態の悪い方にはきざみ食や体調によりお粥食にしている。お茶や牛乳など飲用して頂き水分量を確保している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし歯磨き・含嗽している。義歯装着の方は毎食後洗浄し含嗽している。1週間に2回(月、木)義歯除菌をしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のパターンを把握し声掛けと誘導を行っている。行動も観察し誘導をしている。時間促排も施行している。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握し食事、水分補給や軽い運動(ラジオ体操、歌謡体操その他)を行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人個人の入浴パターンを把握し希望を取り入れ楽しんで入浴してもらっている。(毎日どこかの階が入浴を行っており、他の階での入浴が可能。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活に配慮し工夫している。睡眠パターンの把握に努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報交換で話し合い勉強会をもっている。(他フロアの薬の情報)カルテに薬の効能書きをはさみこんであり、理解している。(作用、副作用、用法、用量)内服後の症状の変化も必ず観察している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方は、季節ごとの行事にとっても喜ばれ、又、家事、散歩、買い物、ドライブなども楽しんでいますが、コロナ禍以降外出は減っており、各フロアでの行事や活動に力を入れている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなど希望にそって出かけている。老健の行事や地域の行事に参加し援助している。家族に対して、本人が行ってみたい所やドライブに行ける様、取り計らっている。正月には初詣にも出かけている。コロナ禍以降、受診以外の外出・外泊は控えていたが、少しずつ以前の状態を取り戻すべく検討している。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る入居者については職員と一緒に買い物に行った時に支払いされている。管理が難しい方はこちらで預かり収支を小遣い帳に記入。買い物時はお金を渡し、見守りで本人に支払いをして頂いている。コロナ禍以降、買い物は控えている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、電話、手紙の支援をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節に合わせた花や飾り物を置いてある。入居者が生活しやすい家庭的な雰囲気がある。季節に応じてエアコンと加湿器を使用し、快適に過ごせるよう配慮している。清掃可能な入居者の方が職員と一緒に掃除を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍以降、一定方向に向き少人数で座っているが、本来ホールではくつろぎながら雑談が出来るようにテーブルの配置等工夫している。和室の掘り炬燵で静かに新聞を読んだり、ゆっくりパズルをしたりすることも出来る。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し使い慣れた机、椅子などを持ち込み、本人が居心地よく過ごしている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、手すりを利用して歩行する方もいる。居間の階段には滑り止めをしてあり、転倒防止に努めている。		